



神の母聖マリア (ルカ 2:16-21)

出来事の真の見方をマリアに学んでいく

「羊飼いたちは、この幼子について天使が話してくれたことを人々に知らせた。」(2・17) 本日新成人の祝福式があります。羊飼いが幼子イエスのことを人々に知らせたように、自分の信仰を人々に知らせる人になってもらいたいと思います。

まずは新年明けましておめでとうございます。今年もよい年でありますように。神の母マリアの祭日のミサを通して一年を始めることで、神の計画を静かに思い巡らすマリアの姿を今年一年の鏡としましょう。年賀状をくださった方もおられると思います。この場をもって、お一人お一人へのあいさつの代わりにとさせていただきたいと思います。

福音朗読に戻りましょう。羊飼いたちは飼い葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけ出しました。単に幼子を見つけ出したわけではありません。幼子を見つけるだけなら、毎晩羊の見張りをしながら夜を明かす彼らにとって何も難しいことではありません。そうではなく、飼い葉桶に眠る乳飲み子の中に、「救い主」「主メシア」を見つけ出したのです。

どういう意味でしょうか。羊飼いたちは天使によって出来事を知らされました。天使が語ったことは神の救いの計画と、それが今や実現したことを示す「しるし」でした。羊飼いがマリアとヨセフを訪ねてみると、その両方を確認できたので、人々に「天使が話してくれたこと」を知らせたのです。出来事の向こうにあるものを見る目が、必要でした。

もちろん、羊飼いの話を聞いた人が皆、「神の救いの計画」と「計画が今や実現したというしるし」と、両方を理解できるとは限りません。私は田平教会にいて旅行者の中にロザリオを首から提げてネックレスにしている人を見ました。「ジャラジャラ重たいだろうに。ご苦労様」と思うと同時に、「その身に着けているものが何か、わかりますか？」と話しかけたくなります。祈る道具としてのロザリオが、彼らには見えていないのです。

2019年は皆さんが、教皇フランシスコを直接目で見、あるいはテレビで姿を拝見した年になりました。2020年は私たちの信じているキリスト教に話題を結びつけるまたとない機会です。二度と無い機会かも知れません。神様は、長い教会の歴史の中で、もう一度、小さな人々、貧しい人々に手を差し伸べるイエス・キリスト、神の子みずからが貧しくなって人々に寄り添ってくれたことを示したかったのです。

今、私たちに与えられた教皇は、刑務所に服役している人を聖木曜日の典礼で足を洗ってあげたり、路上で生活している人のお世話を担当司教と衣服を交換して変装し、自ら食べ物を配ってあげたりするお方なのです。「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。」(マタイ 25・40) この世界に生まれたままのイエスを、現れたときにおこなっていたことそのままを、フランシスコ教皇様は実践してくださっています。

新成人の皆さんにも、周りの人に自分の信じていることを説明してあげる人になって欲しい。「飾り付けているクリスマス飾りの意味がお分かりですか？馬小屋に眠る幼子イエスが、これからどんなことをするかお分かりですか？」あなたの身の回りには、キリスト教の信仰に繋がることをイベントとして単に楽しんでいる人がたくさんいるはずです。その人たちに、「その意味を、教えましょうか？」と近づいてください。

きっと人々は、皆さんが話すことを不思議に思うでしょう。けれども何人かに一人は、出来事の向こうにある意味に気づいてくれるかも知れません。新成人の皆さんが20年前に受けた命、キリスト教の信仰は、出来事の向こうに神の働きがあるのです。目に見える命だけでは、命の大切さを説明し尽くせません。「神が与えてくださった命だから大切なのですよ」と、見える命の向こうにあるものを話してあげる人になってください。説明に行き詰まったら、遠慮無く私を訪ねてください。私の所にその人を連れてきてください。

今日、新成人を迎える皆さん、神の母聖マリアがこの門出を祝ってください。マリアがこう語りかけてくれます。「私は、あなたの母です。肉親の母ではないかも知れませんが、出来事の向こうにあるものを説明するお手伝いのできる母です。私を通してイエスに祈ってください。言いエスが出来事の本当の意味と価値を教えてくださいます」そう言ってこの門出の日を祝ってください。

マリアを通してイエスに祈る人であってください。世の中の出来事は、イエスという光に照らさなければ理解できないものがたくさんあります。悩むとき、目の前のことだけにとらわれずに答えを探す導きを、マリアはきっと助けてくださいます。これからも、田平教会と繋がって、神の母聖マリアと繋がって、日々生きることを期待しています。

主の公現(マタイ 2:1-12)